

CHUKYO UNIVERSITY

SPORTS

Vol.21
2019/10月号

Go For
PICK UP!!
TOKYO

INTERCOLLEGE REPORT

水泳、陸上
インカレ・レポート

NEWS FLASH

女子ソフトボール部
西日本インカレ優勝

プロボクシング田中選手が
防衛に成功

ゴルフ日本女子学生選手権で
岡田選手が4位入賞

スポーツミュージアム開館

挑戦する大学



トライアスロン

Triathlon



TOKYO

体操

Gymnastics

やはり『今からかな』

世界選手権での悔しさをバネに

2020東京五輪を目指す

梶田風

昨年10月ドーハ（カタール）で開催された「世界体操選手権大会」（以下ドーハ大会）の代表に選ばれた梶田風選手（スポーツ科1年）。ドーハの街は海に近く美味い海鮮料理も豊富で、日本女子選手たちは気分揚々であった。しかしドーハ大会には大きな壁が待ち構えていた。「体操器具」である。「メーカーの特性」で、技の難易度を下げないと手足を痛める可能性があるというもの。急きよ、技や演技構成などの変更を強いられ日本チーム全員が苦戦した。梶田選手も自分の技を合わせようとしたが、全く太刀打ちできなかつたらしい。「日本チームは決勝で6位に入賞したが、自分はそれに尽力できず本当に悔しかった」と話す。

半年後、中京大学の門をくぐっ

た。地元の山梨から離れることもあり、一人暮らしで満足な練習ができるのか不安だったという。5月「NHK杯」の演技が認められ、10月にドイツで開催される「世界体操選手権大会」の代表に決まった。「ドーハ大会に続き2回目の代表入りですが、今回の方が何倍も嬉しい」と顔をほころばせた。ドーハ大会の頃から本番での失敗が続き、技も冴えず思い悩んでいたそう。

2020東京五輪が近づき、元の新聞社が取材に訪れるなど注目が集まり始めた。自身の練習方法について「海外での練習が『自分の強くなる道』と実感しています。国によって練習方法も違い、刺激があり、得ることも多い」とのこと。「この1年で練習『量』

「中京大学附属中京高校・陸上競技部の意地とプライドにかけてランは絶対に負けたくない!」の走りでナショナルチーム強化合宿の参加を獲得

潮田小波

附属高校陸上競技部3年の時、同部総監督から「トライアスロン関係者の話を聞きに行くように」と言われた潮田小波選手（スポーツ科4年）。「軽く話を聞きに行くだけ」が、その場で1か月後の大会

のため別メニューが組まれた。「自分の立ち位置」を心底痛感した。「一方で世界を目指す選手たちを目の当たりにし、本気で頑張りたい」と決意した。

潮田選手は同競技の魅力について「中学まで水泳経験はあるがスイムに苦戦中で、第1集団に入る泳力があれば世界は近い」。目標は2024パリ五輪出場。U-23強化合宿の参加など先を見据えたトレーニングも始まっている。



より技の修正力など『質』を高め、全種目を安定して通す力をつけたい」と話す。「体操器具に大苦戦して、悔しい思いをした前回のドーハ大会。まずは10月のドイツの世界選手権大会、今度こそ日本チームに貢献したい。だから……やはり『今からかな』と思います」と力強い眼差しに、今後の活躍を予感させた。



テコンドー
Taekwondo

Go For

地元岡崎市の道場「輝蹴会」で小学3年生の時にテコンドーを始めた。中学3年生になる頃には国際大会に出場するまでに成長し、高校3年生で全日本テコンドー選手権で準優勝。テコンドーの真央ちゃんとメディアにも取り上げられる存在になった。2019年の

テコンドーの森本真央選手（スポーツ科1年）は、9月の全日本学生テコンドー選手権で優勝し、目前に迫った東京五輪へ向け、研鑽の日々を送っている。日本代表選手選考会は2020年2月に最終選考を迎えるが、森本選手はその有力候補のひとり。「私は追う立場。自分がやってきたことを出しできれば、結果はついてくると思っています」と笑顔で語る。

「今の課題は体力面。筋力をつけて、重さでも速さでも負けないようにしたい」と筋力トレーニングも増やしているが、それも大学内のジムを使うことで効率が上がったと喜ぶ。もちろん現状に満足はしていない。シニア転向で世界ランカーとの試合も増えた中では実力差を感じるばかり。「初めて世界3位の

全日本テコンドー選手権では惜しくも3位に終わったが、「クヨクヨしている時間はない。次の日から練習でした」と話す表情は、2020五輪を目指すアスリートの情熱に満ちていた。学生生活も順調だ。中京大学の同級生はいわば同類のアスリート揃い。異なる競技からの刺激も、友達との切磋琢磨も背中を押す。



選手と試合をした時、本当に歯が立たなかった。もって経験を積んで、課題をクリアして、東京五輪に出場できたらと思います」。五輪もメダルも夢ではなく現実的な目標。夢というならテコンドーの認知度を上げることだという。その足掛かりにもなる東京五輪出場へ向け、森本選手は今日もひと蹴りに全身全霊の魂を込める。

五輪出場とテコンドーの認知度を上げることが目指して

森本真央

エントリーが決定。急きょ同校水泳部への練習参加やバイク練習を行い2015年7月に初出場した。同年8月に「日本ジュニアU-19選手権」へ出場し総合成績10位。「ラン部門・高校生女子1位」が認められ「U-23ナショナルチーム強化合宿」の参加となった。潮田選手は「陸上に比べて選手層も薄く『無名新人のラン1位』が効きました」と笑う。他の女子選手を寄せつけない抜群の走力だったが、バイクは素人同然レベル

で「1.5kmスイム後の40kmバイクで選手同士が臨時にタッグを組み、前集団を目指します。遅れたら容赦なく置き去りで10kmランの逆転もある。勝敗は最後まで分らず常にスリルがある」と話す。逆に厳しい面は「レース中の苦しさをやり練習でバランス良く3種目を伸ばすこと。1種目に集中すると他の2種目が崩れます。3種目を毎日6時間。練習が長くて……」と笑う。



る。「2024パリ五輪の代表入り、食い込めると思っています」。力強い言葉に決意がみなぎっていた。

水泳

Swimming

学校対抗で 女子が3位、男子は5位!

水泳競技の第95回日本学生選手権大会が9月6～8日、東京辰巳国際水泳場で開かれた。学校対抗では女子は昨年と同じ3位を維持したが、昨年2位の男子は後半盛り返したものの5位にとどまった。8位以内が条件となるシード校には例年通り、唯一、中部地区の大学として入り、今年も伝統の力を示した。

中大大勢は第1日、大会最初の決勝レース、女子50m自由形に2人が進出し、相馬あい選手(ス

ポーツ科4年)が3位入賞で表彰台に上る幸先良いスタートを切った。さらにこの日の最終種目400mメドレーでも女子は3位に入った。男子も健闘したが、4位入賞で表彰台は逃した。

第2日も女子の活躍が光った。この日最初の決勝、200m自由形で1年の今井美祈選手(スポーツ科)が2位に、100mメドレーバタフライで相馬選手が優勝、表彰台の真ん中に立った。相馬選手は予選を58秒25の好タイムで1位通過し、

57秒台突入も期待されたが、惜しくも58秒51にとどまった。女子は400mメドレーリレーでも2位入賞した。男子では1年の松本周也選手(スポーツ科)が200m個人メドレーで4位と気を吐いた。

男子が表彰台の中央に立ったのは最終日。100m背泳ぎの宇野終平選手(スポーツ科4年)だった。宇野選手は第1日の200m背泳ぎでは予選を通過できず、「100mでは何とかします」と悔しそうに話していたが、見事に

約束を果たした。ただ、タイムは55秒50とやや物足りなさを残した。また、松本選手は400m個人メドレーでバタフライ、背泳ぎの200mまではトップを快泳したが、平泳ぎで順位を落とし、惜しくも200m同様の4位に終わった。女子は最終日も大健闘。200m平泳ぎで千田舞奈美選手(スポーツ科3年)が2位、100m自由形で西津亜紀選手(スポーツ科4年)が3位と表彰台にぎわせた。



▲女子400mメドレーリレー 秀野選手、千田選手、相馬選手、今井選手(左から)



▲女子100mバタフライ 相馬選手



▲男子400mメドレー 松本選手



▲男子100m背泳ぎ 宇野選手



▲女子100m自由形 西津選手



▲男子100mバタフライ 6位入賞 三浦選手

INTERCOLLEGE REPORT



▲女子100m障害 猪岡選手(右から2人目)



▲男子走高跳び 井戸田選手



▲女子1万m競歩 矢来選手



▲男子200m 川端選手(左)



▲男子ハンマー投げ 古旗選手



▲男子棒高跳び 石川選手



▲女子走高跳び 蛭子屋選手



陸上競技の第88回日本学生対校選手権大会(陸上インカレ)が9月12〜15日、岐阜市の岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開かれた。中京大は対校戦で男子が総合得点36点で昨年と同じ5位に、女子は31点で8位と順位を三つ落としたものの、ともにトップ8入りを果たした。男子は順天堂大が日本大の8連覇を阻んで9年ぶりの優勝、女子は筑波大が連覇した。

個人では第2日に行われた女子1万m競歩の矢来舞香選手(スポーツ科3年)が優勝した。2位の順天堂大の選手に20秒近くの差をつける堂々のレースぶりを披露した。兵庫県立西宮高校1年の時、先生の勧めで長距離走から転向、試合では常に上位を維持してきたが、「優勝は一度もなかったのが本当に嬉しい」と飛び切りの笑顔を見せた。渡邊雄己コーチも「この優勝をきっかけにさらに飛躍を」と期待を寄せる。結果的に矢来選手が全種目でたまた人の女子優勝者となり、この種目では立見真央選手(スポーツ科2年)も6位入賞した。

一方、男子唯一の優勝者となったのはハンマー投げの古旗崇裕選手(体育研究科1年)で65kg42を投げ、2連覇を達成した。また、中村美史選手(スポーツ科2年)が6位に入った。初日は女子の活躍が目立った。棒高跳びの南部珠璃選手(スポーツ科3年)が3kg90で3位の表彰台に、円盤投げでは森川絵美子選手(スポーツ科4年)が4位、堀田葉月選手(スポーツ科3年)が7位と2人が入賞した。

第2日には男子も棒高跳びで石川拓磨選手(スポーツ科4年)が5kg30を跳んで3位表彰台に、砲丸投げで杉本仁選手(スポーツ科4年)が6位に入った。女子はこの日も好調が続き、七種競技で飯塚あかり選手(スポーツ科4年)が最終種目の800mで二つ順位を上げて3位となり、表彰台に入った。第3日は短距離種目で女子100m障害の猪岡真帆選手(ス

ポーツ科2年)が8位に初入賞し、男子十種競技で前日トップに立った西尾拓巳選手(スポーツ科4年)がこの日は順位を落としたものの、7位に入賞した。

そして最終日、第3日を終えて対校順位20位の男子がフル回転した。ハンマー投げ優勝の古旗崇裕選手に加え、走高跳びも大健闘。蛭子屋雄二選手(体育研究科1年)が2kg21、井戸田魁選手(スポーツ科4年)が2kg18とともに自己ベストをマークして2位、3位となり、表彰台をにぎわせた。また、200mで川端魁人選手(スポーツ科4年)が8位入賞、男子は総合順位で20位から5位に一気に駆け上がった。

女子1万m競歩の矢来選手
学部生唯一のチャンピオンに!

陸上 Track and field



女子ソフトボール部 西日本インカレ 23年ぶりの優勝

インカレはベスト8進出

Softball

中京大学女子ソフトボール部が8月2～5日、岡山県久米南町、町民運動公園他で行われた第51回西日本大学（女子）ソフトボール選手権大会で、23年ぶり7度目の優勝を果たした。

この大会は西日本32大学が参加し、5試合を戦い抜き決勝戦で太成学院大学を7-1で破り優勝した。

舟橋花保主将（スポーツ科4年）は「西日本インカレでは全員総力で5試合勝ち抜き、23年ぶりの優勝ができました。インカレでは今まで以上に厳しい戦いになると思いますが、感謝の気持ちを忘れず、結果で恩返しができるように全力プレーで戦い抜きます。地元安城開催なので是非応援に来てください」と熱く語った。

二瓶雄樹監督は「23年ぶりの優勝と



いうことで、大変嬉しくもありませんが、安堵感もある結果でした。最大の目標である全日本インカレに向けて、これを弾みに頑張りたいと思います」と意気込みを語った。



日刊スポーツ/アフロ

プロボクシング 世界王者田中選手が 2度目の防衛に成功

Boxing

経済学部OBのプロボクシング世界ボクシング機構（WBO）フライ級チャンピオン田中恒成選手（畑中）の2度目の防衛戦が8月24日、名古屋市の武田テバオーシヤンアリーナで行われ、田中選手が7ラウンド（R）2分49秒TKOで同級1位のジョナサン・ゴンザレス選手（プエルトリコ）を下し、防衛に成功した。

田中選手の戦績は14戦14勝（8KO）。1Rから田中選手がじりじりと前へ詰め、コーナーに追い込むような展開が繰り返された。しかし、ゴンザレス選手は下がりながらも先にパンチを繰り出し、うまく回り込む形に。試合が少し動いたのは3R。田中選手の低い姿勢からの右ボディブローが決まると、ゴンザレス選手は二呼吸置いて崩れ落ち、最初のダウン。続く4R、やはり前へ前へと出る田中選手が今度は、ゴンザレス選手の左フックにダウンを喫す。スリップと見える

ようにもあつたが、田中選手は「バランスを崩してしまった」と振り返った。

5、6Rも田中選手が前へ前へと進み、ゴンザレス選手が回り込むパターンは続く。田中選手の手数が多くにも思われたが、6Rまでジャッジ3人の採点によると、ゴンザレス選手リードが2人、1人が同点だった。

そして7R、田中選手は二転、パワーのボクシングに切り替えた。ボディに狙いを定めて左右のパンチを的確に放った。たまたまゴンザレス選手はダウンを重ね、3度目のダウンから必死に立ち上がったところでレフェリーが試合を止めた。

試合後、田中選手は見事な勝利にも「負ける気はしなかったが、うまくいったとも言えない」といつもより静かなトーンでインタビューに答え、「まだまだレベルアップを目指していきたい」と早くも先を見据えていた。



ゴルフ部 岡田選手が 4位入賞

ゴルフ日本女子学生選手権で大健闘

Golf

「すごく自信になりました」。ゴルフ部の岡田梨沙選手（現代社会1年）がゴルフ日本女子学生選手権競技で4位に入賞し、会心の笑顔を見せた。同選手権は第56回を迎えた伝統の大会で、今年は8月28日から3日間、兵庫県の小野グラウンドカントリークラブ（パー72）で行われた。全国の強豪校から将来のプロゴルファーを目指す選手たちも集い、例年、技術的にもレベルの高い、内容の濃い試合を繰り広げている。

今年のは初日が雨模様、第3ラウンドの最終日には雷雲の発生のため競技が一時中断するハプニングもあったが、スコア215で1アンダーの岡田選手を含め4位タイまでの5選手がアンダーパーをマークした。岡田選手は第1、第2ラウンドをともに72のパープレー、9位で予選を通過（25位タイまで）した。そして最終日、「ピン」の位置がとて難しかった」と言い、「まず、崩れないプレーを心がけ、攻めるところは積極的にいきました」と振り返った通り、この日のスコアは1アンダー71。しかも1バーディー、他の17ホールはすべてパーという素晴らしい安定性を発揮した。岡田選手が初めてクラブを握ったのは



小学2年生の時。ゴルフ好きの祖父父母に連れられて練習場に行ったのがきっかけで段々とゴルフの楽しさに目覚めた。「小学校の終わりがくると、中学入学ころには将来はプロでやってみたいと思うようになりました」。今春、中京大入学と同時にゴルフ部に入部。豊田キャンパスの練習場や、休日には大学の近くに数多いゴルフ場でキャディーをしながら練習にも励んでおり、8月中旬の中部女子学生ゴルフ秋季大学対抗戦では準優勝した。

10月下旬には、学生の大きな競技会の一つ、朝日杯（個人戦）、信夫杯（団体戦）がともに千葉カントリークラブで開かれる。安田和広部長は「岡田選手が勢いをつけてくれた。今年は男女とも選手たちの力が充実してきているので面白い試合ができそう」と手ごたえを感じている。



競泳オリンピック 金メダリストが 選手たちを指導

アンソニー・アービン
水泳クリニックを開催

Swimming

「梅村学園100周年記念講座アンソニー・アービン水泳クリニック」が8月21日、豊田キャンパス屋外プールで開催され、中京大学水泳部員や県内高校の水泳部員、梅村清英総長・理事長ら関係者など約150人が参加した。

アービンさんは2000年シドニー、2016年リオデジャネイロオリンピックの50m自由形で金メダルを獲得しており、リオオリンピックで獲得した35歳での金メダルは同種目では史上最年長である。今回は在名古屋米国領事館の招いで同講座の開催にいった。

会の冒頭で安村仁志学長が「高校生の皆さん、よくお越しくださいました。梅村学園創立100周年を迎えるにあたり、世界的な名選手をお迎えしましたが、愛知県で初めてこういったレッスンを行えるのは非常に光栄なことです。今日は（屋外で）暑いですが、熱中症でなく、このレッスンに熱中しよう！という感じでいきましょう」と挨拶した。また、在名古屋米国領事館ゲリー・シェイファー首席領事は「スポーツを通じて国際交流の機会が生まれることを嬉しく思います」と述べた。

講座はアービンさんの「ドーン」など日本語の指示も飛び出し、学生たちが笑顔になる和やかな雰囲気が始まった。自由形など4泳法以外で泳ぐなど発想を変える指導や、腕や肩の動き、ポジショニング姿勢の実演を交えて説明し、また持論の筋肉の動きや泳法について熱く語った。最後の質疑応答の時間では、オリンピックでの喜び、プレッシャー克服方法などの話も披露された。

水泳部の佐々木祐一郎監督は「日本人は頭で考えて納得してからの（泳ぎや）動きですが、アービンさんは感覚での動きをとて大切にしている指導をしています。学生や高校生はもちろんのこと、我々指導者にとっても良い刺激になりました」と語った。

豊田キャンパス3号館(大体育館)にスポーツミュージアムが開館した。オリンピック・パラリンピックに出場した中京大学関係者は延べ133人(2019年9月現在)である。また、指導、スポーツ科学の面からオリンピック・パラリンピックを支えてきた教員も多く存在する。本ミュージアムは、これらの関係者から寄贈・寄託された資料とスポーツ科学部のスポーツ史研究者が収蔵した資料を所蔵し、この一部を大学による社会貢献として市民に無料で公開し、また、小中高に教育活動の場として提供する。

伊東佳那子スポーツミュージアム学芸員は「二つ目は、資料・展示物が3698点あり、それぞれに背景やストーリーがある。学生がそれに関心を持ち研究する場所とした。二つ目は、地元の小中学校に見学して楽しんでもらう教育の場としたい」と語った。資料以外にも、デジタル画像30710点を収蔵し、また、常時1500点の資料を展示する。

現在、オリンピック・ミュージアム・ネットワークに加盟を申請している。日本のオリンピック・ミュージアムは札幌、長野、東京と過去にオリンピックを実施した場所に開設されている。申請が受理されると国内4番目のミュージアムとなる。



スポーツミュージアム開館

より良いスポーツと未来の構築に
貢献することを目的とする

Museum



中京大学 子どもスポーツフェスタを開催

11月17日、中京大学豊田キャンパスで「中京大学子どもスポーツフェスタ」を開催する。

このイベントは、子どもから大人までみんながスポーツを楽しめる「お祭り」である。

「かけっこ教室」「陸上競技測定会」「水泳教室」「ダンス教室」などの教室型、「サッカー体験」「野球体験」「ラグビー体験」「eスポーツ体験」などの体験型、さらに、協賛企業の企業ブース、スポーツミュージアム、フリーマーケットなどの見学型などがある。

誰でも気軽に取り組めるプログラムが数多くあり、未経験でも楽しみながらスポーツを体験できる。

「教室型」プログラムは事前申し込みが必要となる。

中京大学 子どもスポーツフェスタHP
<https://www.chukyo-u.ac.jp/sportsfesta/>

問い合わせ先
中京大学スポーツ振興部
電話番号 0565-46-6935
メールアドレス
sportsadmin@ml.chukyo-u.ac.jp



Festival



選手を指導する青戸監督

ネパールユース陸上選手 中京大学で競技方法など学ぶ

長野・駒ヶ根市の東京五輪関連事業に協力

ヒマラヤ登山の玄関口としても知られるネパール（正式国名・ネパール連邦民主共和国）から9月、同国陸上競技界若手のホープたちが中京大学豊田キャンパスを訪れた。本学陸上競技部員との練習や土曜競技会への出場を通してトレーニングの方法などを学び、力試しにもチャレンジした。

一行は、ネパールオリンピック委員会（NOC）のテズ・バハドール・グルン副会長とラケシュ・バズラチャリア短距離コーチが引率する17〜20歳の男女2選手ずつの計6人。長野県駒ヶ根市の「東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン事業」の一環で来日した。駒ヶ根市は、ネパールのポカラ市と友好都市関係にあることからネパール若手選手招へいを企画。中京大は、陸上競技部の青戸慎司監督が同市のスポーツ教育の一つ「かけっこ教室」を授業として指導しており、その縁で同市の事業に協力することになった。6人は16日に中部国際空港に到着



挨拶をする青戸監督、右は杉本駒ヶ根市長

し、駒ヶ根市入り。翌17日に市役所に杉本幸治市長を表敬訪問した際には、選手たちの指導のために招かれた青戸監督も同席した。選手たちが一人ずつ青戸監督に対し、自らの種目や記録などを説明すると、青戸監督も自己紹介をした後、「いろんなトレーニングを紹介しますので、ネパールに帰ってからも続けてやりましょう」と激励した。午後からは同市の県立高校生らとネパール選手の合同練習で指導した。

中京大豊田キャンパスでの練習は19、20両日に行われた。19日午前中にはアリーナやフィットネスプラザ、プール、野球場、サッカー場などキャンパス内を二巡りした。アイスアリーナではフィギュアスケート選手の練習風景にくぎ付けとなる女子選手もいて、案内者の「そろそろ移動を」との声に「もう少しお願い」と見学時間を延長する場面も。また、プールでは佐々木祐一郎水泳部監督が流水プールなどについて、野球場では硬式



プールを見学して記念撮影

野球部の半田卓也監督が実際に硬式ボールを選手たちに握らせるなどして競技や施設の説明をした。その後、選手たちはスタート練習やトレーニング法などについて青戸監督や陸上部員に学び、練習に取り組んだ。

また、20日にはかつてハンドボール選手だったというNOC副会長からの依頼で、中京大学への留学や国際交流、トレーニングのことなどについて倉持梨恵子スポーツ健康科学科長と船木浩斗競技スポーツ科学科講師が質問に答えた。

そして交流最終日の21日には豊田キャンパス陸上競技場で開かれた土曜競技会にネパールの4選手も参加。2選手が自己ベストを更新し、このうち男子800mに出場の選手はその組の1位でゴールし、大きな拍手を浴びた。

事業の最後まで付き添った駒ヶ根市の職員は、「今後もどんなことができるかを考えていきたい」と今回の交流事業に手ごたえを感じていた。

3月に創部したeスポーツ部 国体出場を決める

3月に創部したeスポーツ部が、8月18日に行われた国民体育大会eスポーツ少年の部愛知県大会で優勝し茨城国体への出場を決めた。小川青空監督は「創部から目標としていた茨城国体への出場を決めることができた。これは生徒にとっても大きな励みになる。10月5〜6日に開催される国体まで練習を積み、上位を目指す」と熱く語った。



女子軟式野球部 全国大会で 準優勝



女子軟式野球部は、8月に開催された全日本女子軟式野球学生選手権大会で、創部5年目にして準優勝を果たした。土井和也顧問は「準決勝では最終回まで3点差で負けていたが、一挙4点を取りサヨナラ勝ちとなった。これは生徒たちが常に強くあろうと取り組んできた結果である。多くの部員は野球が未経験から切磋琢磨してここまで成長した」と語った。高校在学中は「1番ピッチャー、キャプテン」で活躍した相良佑梨さん(中京大スポーツ科3年)が監督を務めた。



部員をまとめ、バッテリーを組んでいた森友理恵さん(中京大スポーツ科3年)がコーチでサポートしている。OGのサポートが部の力となっている。新チームは先輩が構築したレベルを引き継ぎ、新たな課題をクリアにして「日本二を目指す」。

陸上競技部 男子インターハイ 400メートルリレーで優勝 梅村総長・理事長らに報告

陸上競技部男子リレーチームは、8月4〜8日に沖縄県で開かれた全国高等学校総合体育大会(インターハイ・沖縄)で400メートルリレーで優勝に輝いた。男子総合成績は2位だった。チームメンバーと北村肇監督、伊藤正男校長は9月19日、中京大学名古屋キャンパスを訪れ、梅村清英総長・理事長ら学園首脳に優勝を報告した。

リレーは第1走者に竹内大和選手(3年)、第2走者富田大智選手(3年)、第3走者神谷翔矢選手(3年)、アンカーの第4走者は河田航日(2年)が務めた。それぞれ茨城国体の県代表やU・20、U・18日本選手権の出場者に選ばれている。富田選手は「高校入学時から日本一を目指していたので嬉しい。まだ高校記録を更新するという目標は達成できていないので、また力をつけて頑張りたい」と振り返り、日常の練習については「易しい練習ではないけれど、自分のためになると思っています」と話した。



北村監督は「インターハイで優勝しましたが、まだチームの目標は終わっていない。日本高校記録、中京学生記録も更新する予定で練習にはげみます」と意気込んだ。梅村総長・理事長は「日々指導してくださる先生や保護者の方への感謝を忘れずに、この経験を糧にしてけがに気を付けて頑張ってください」と激励した。

{ Chukyo's COACH }

中京大学陸上競技部

田内 健二部長

Shigeji Taniuchi

2018年10月、故本田陽准教授の後任として陸上競技部部長に就任した。中京大学に教員として就職したのは2011年春。早稲田大(スポーツ科学部助教)でやり投げロンドン五輪代表のディーン元気選手らを指導していた当時、ハンマー投げの(アジアの鉄人)、室伏重信さん(中京大名誉教授)の眼に留まり、勧められて中京大学の教員採用試験を受けた。結果的に出身地の岐阜県からほど近い豊田市で教員生活に入った。

スタートはスポーツ科学部専任講師、同時に陸上競技部の投てきコーチの任にも就いた。自身が投てき種目のやり投げを始めたのは岐阜県立関高校2年の終わりころ、比較的遅い競技との出会いだった。中学校までは野球に興じたが、「個人の力がストリートに結果に表れる個人競技を」と、「足が速かった」こともあって高校では陸上競技部に入り、短距離走と走り幅跳びに取り組んだ。

ただ、将来の職業として目指していたのは数学教師。「3年生になったら目標に集中しよう」と思っていた矢先、「野球の投手経験を生かし、やり投げをしてみたら」と先生から声をかけられた。そして初めて投げてみたところ、何と53メートル飛んだ。自分でも「えっ」と思い、周りからは「す

ごいね」と声が上がった。3年生ではインターハイに出場し、秋の国体予選で61分に記録を伸ばした。「そういえば女子も含めてやり投げには野球経験者が多いんです」と今、振り返る。

そして目標は数学からスポーツに変わった。シーズンが終わると勉強に集中、筑波大学に一般入試で合格し、陸上競技部にも入った。大学院に進学した1998年のバンコクのアジア競技大会に向けては有力な代表候補にも挙げられていたが、代表選考を兼ねた日本選手権で、「自分の力ではどうにもならない」ところでよもやのエントリーミスがあり、「優勝のつもり」が出場にすら至らなかった。

「苦しい出だだが、「将来は研究者になろう」と切り替えるきっかけにもなった。そして今、その研究者の道にある。専任講師を2年、准教授を5年と最短ルートで終え、2018年4月から教授に。競技スポーツ学科長も務める。さらに陸上競技部部長、投てきコーチ。すでに何人かの日本代表選手を育てているが、「コーチとして世界チャンピオンをつくるのをライフワークにしたい。研究したことを糧にして選手を育てたい」と将来を見据え、「部長としては大学とのパイ役に徹したい」と話す。そしてもう一つ、東京五輪に向けて日本陸連のオリンピック強化コーチにも任命された。今、忙中閑なしだ。



学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

【中京大学スポーツ】



屋外温水50mプール



発行／中京大学
〒466-8666
名古屋市昭和区八事本町101-2

■ 広報部
TEL 052-835-7135

スポーツキャラクター：イーグル（鷲）

中京大学スポーツのシンボルとし、「ルールを守り、チームを敬い、どのような困難も乗り越え高みを目指す勇気を象徴し、チャレンジ精神を表す」と位置づけている。